

『センターへ派遣してきて思うこと』

本庁支部 (公財) 福岡県建設技術情報センター 松下 剛

1. はじめに

福岡県から派遣職員としてセンター1年目ですが、現在感じていることを皆さんへお伝えしたいと思います。配属先は土木支援課で、県や市町村の公共工事のための積算支援や現場技術支援の業務を受託する部署です。まさかのまさか、この歳で積算マシーンとして働くことになるとは思ってもみませんでした。・・・初心に戻っております。この部署は県派遣職員、嘱託職員、臨時職員、民間派遣職員の総勢69名で構成されており、民間派遣職員が大半で、県職の数は今年度9名となり年々減ってきている状況です。民間派遣会社は、6社のコンサルが入っていて、様々な職種(土木、法面、舗装など)の経験豊富な方が揃っています。その為、業務においてはその経験を活かした着目点で、発注者からの設計成果品を再度チェックし、設計コンサルへ修正依頼を行うなど、違算のない質の高い設計書を目指し日々業務を行っています。

2. 業務内容

具体的に積算支援業務の中身について、センターが何をやっているか、お話したいと思います。センターへ来る前の私のイメージは、設計成果品(数量や図面)を簡単にチェックし、大きな間違いは修正して積算根拠資料をつけて設計書の形にするもので簡単という語弊がありますが、そのように思っていました。しかし、実際はCAD寸法線のサイズや寸法チェック、鉄筋本数など図面の隅々までをチェックしていました。当たり前のことですが、図面に記載されていることが数量表に反映されているか、また図面に必要なことが記載されているかなど、事務所以上に多岐にわたってチェックし、設計コンサルへ修正依頼をしています。なぜ、センターで修正をしないかという、間違いや責任問題を認識していただくためです。その他には、発注者との積算条件整理をその都度行っています。納期が決まっているため、その期間内に設計コンサルや発注者とのやりとりを終え、設計書を完成させ納品しています。

3. 問題点

センターへ来て気になることを2つあげます。1つ目は、設計成果品の精度が低いものが多いように感じます。もちろんしっかりと設計されているものもありますが、8割程度は成果が良くないと思います。つまり、図面や数量の違算や計上漏れが圧倒的に多いということです。設計コンサルへ修正を依頼しても1~2回では終わらず、真摯に対応してくれないこともあり大変です。発注者側で検査を終えているので、未熟な成果品があってはならないのですが・・・。

2つ目に、今後、センターで行う積算支援業務が減り、民間へ移行した場合、センターが持つノウハウが活かせなくなるのではという懸念があります。

4. 最後に

センターが行っている積算支援や現場技術支援業務は、業務多忙な県や市町村の担当にとって重要な役割を果たしていると思いますし、県の若手土木技術者がセンターへ来て業務のノウハウを覚えることも人材育成として必要ではないかと考えます。客観的に外から県を見る機会や、民間の方々から仕事の効率性や考え方を学ぶことができ、良い経験をさせていただいています。仕事以外にも、今年からアジング（アジのルアー釣り）を始めました。アジングは波止場などでやっていますが、公私ともに民間の方々と一緒に和気藹々とストレス発散しながら楽しんでいます。是非、皆さんもセンターへ来てみませんか。